

第 3 2 回秋田県支部 俳句大会成績（紙上）

令和四年五月

山崎 祐子選（本部選者）

特選 胞衣むかし埋めたり虹の立つところ

柳川 大亀

同 花吹雪がんじがらめを解くやうに

大坂 和子

秀逸 田一枚蹴つて白鳥帰りけり

加瀬谷敏子

同 虹立つや呼ぶ人も無く手を振りぬ

千葉 糸子

同 城山に城無く蝉の木立かな

山田 草人

佳作 ぶな山の清水を飲みて百寿かな

安倍 幸一

同 朧夜のひとりに広きベンチかな

米屋 道子

同 校庭の遊具のひかり百千鳥

佐々木亮子

同 凌霄の怖さを知らず咲きのぼる

高橋 恭三

同 あたたかや子持蝶に裏表

大石 愛子

同 山百合の己が重みにしなりけり

工藤 進

同 花冷や寄り添ふやうに露店の灯

大橋 風太

同 とろとろと伸びて縮んで朝寝かな

伊東 恵子

同 茄子植えて巨き夕日を仰ぎけり

木村 登龍

同 梅花藻に尾びれ胸びれあるやうな

須田亜希子

山崎 雅葉選

特選 春耕や父の大足日暮まで

加瀬谷敏子

秀逸 春休路地は子の声取り戻す

鈴木アヤ子

同 笙の音も恩師も遙か花の夕

佐藤柳四郎

園部 露郷選

特選 手を添へて脱ぐ靴重し花疲れ

大橋 風太

秀逸 春光へ両手差しのべ少女像

米屋 道子

同 声明の籠る余韻や梅雨の寺

阿部清流子

佐藤 茂樹選

特選 ひとりとは声無き暮し遠蛙

木村 登龍

秀逸 雛祭隣り家なれど余所着着て

鷹照 俊一

同 幾年も顔を見せずに箱の雛

西東 善秋

互選の得点順位

一席	ひとりとは声無き暮し遠蛙	木村 登龍
二席	夏立つや絵皿に溶ける海の色	熊谷 尚
三席	風船を離してよりの自由かな	神成 石男
三席	一着のバトン空まふ運動会	工藤 進
五席	田一枚蹴つて白鳥帰りけり	加瀬谷敏子
五席	春耕や父の大足日暮まで	加瀬谷敏子
五席	声明の籠る余韻や梅雨の寺	阿部清流子
五席	手作りの湯呑みのいびつ啄木忌	伊藤 青砂
九席	少年の素振り百回夏来る	保泉 早苗
九席	春泥を惜しげなく負ひランドセル	土谷 敏雄
九席	進級の靴ひも替えて風光る	滝澤 正子
九席	新緑や応援団の大太鼓	遠山せつ子